

令和7年度全国学力・学習状況調査について ～結果及び今後の取組について～

全国学力・学習状況調査(全学調)の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

【調査対象】

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年

【調査内容】

①教科に関する調査（小学校：国語・算数・理科、中学校：国語・数学・理科）

※中学校理科は、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT：Computer Based Testing）で実施

②質問調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）

国語・数学：令和7年4月17日に実施。

生徒質問調査・中学校理科：4月14日～17日のうち1日（本校4月17日）に実施

～文部科学省「令和7年度全国学力・学習状況調査リーフレット」より～

本校における調査の結果(教科及び生徒質問調査の概要)

【国語】

○全体の結果は県平均・全国平均と比べ、ともに上回っている。

【数学】

○全体の結果は全国平均をやや下回るが、県平均を上回っている。

【理科】

○全体の結果は県平均・全国平均と比べ、ともに上回っている。



西合志南中学校

学校通信

令和7年10月7日

第6号

発行責任者

大山 寛

アクト さくら

※熊本県の詳しい結果については、県のホームページに記載しております↓



【質問調査】

◎県平均・全国平均を上回っていた主な項目

- 国語の授業で、先生は、学習のうまくできていないところを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれる。
- 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役立つ。自分の予想(仮説)を元に観察や実験の計画を立てている。
- 毎日決まった時間に寝ている。

◎県平均・全国平均を下回っていた主な項目

- ICT機器の使用頻度について。
- 自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表すること。
- 数学の授業で学習したことが、将来、社会に出た時に役立つこと。

調査の結果を踏まえ、本校では下記のように課題改善に向けて対応していきます。

引き続き、生徒の学力向上に向けて頑張りますので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

- 引き続き学習規律を整え、学びへの意欲を引き出す課題設定を行っていきます。本校では、特に聴く態度の育成に力を入れています。
- 基礎・基本の確実な定着が図れる授業を行っていきます。
- 自分の考えが深まったり、広がったりすることを実感できる「学び合い」の場の設定やICTを効果的に活用した学習活動の充実を図っていきます。

学校HPにはQRコードをクリックでアクセス→

